

ライン川再生 その2(オランダ)

オランダを流れるライン川の自然景観は、過去数世紀にわたる人間活動によって劇的に変化した。堤防による氾濫原の減少、氾濫原の農地利用、舟運のための河道整備、及び大量の廃棄物の投棄が生態系に影響を及ぼし、ライン川の環境が悪化した。1970年代のライン川は生物種数が有害な化学物質で汚染されていることから、「ヨーロッパの下水道」と呼ばれた。特に1986年スイスのサンドスで起きた化学工場火災に伴う水質事故以降、住民の環境意識が向上し、「2000年にはライン川をサケの泳ぐ河にする」を合言葉に「ライン川行動計画」を立案した。ライン川周辺の自治体の懸命の努力の結果、1980年代の終わり頃から、ライン川の環境は衛生上良質な例に挙げられるまでに回復した。

◆ 再生のポイント

- 水質改善
- 河川形態の復元
- 魚類の自由な移動の復元、ハビタットの多様性の改善

◆ ライン川概要

ライン川では、過去数世紀にわたって堤防の嵩上げや断面の規格化が行われ、洪水疎通の能力の向上や舟運に貢献してきた。しかし、1970年代にはヨーロッパの下水道と揶揄されるほど水質は悪化の一途をたどった。1986年にスイスのサンドスで起きた化学工場火災に伴う水質事故を契機に、ようやく国際委員会による本格的な取り組みが始まり、1994年までに約90%の汚濁低減が達成され、サケも戻ってきた。



◆ 再生のために実施された事業

【水質改善】

ライン川では第一段階で水質汚濁物質の減少を1980年代から始め、リン、重金属や微小環境汚濁物質の除去及び河川水の溶存酸素量の増加に務めた結果、河川は再び生物が生息可能な環境へと生まれ変わり、今日では川で泳いでも健康を害する心配が無くなった。

【氾濫原の環境整備】

過去10年間に多数のプロジェクトが立ち上げられ、オランダ国内のみでも、ライン川の氾濫原に新たに4,000haの環境整備がなされた。これらプロジェクトでは新たに副流路や氾濫原内に湖沼を掘削し、氾濫原の標高を下げ、堤防の除去等も行われた。

【魚類の自由な移動の復元、ハビタットの多様性の改善】

ライン川のオランダにあるすべて(3ヶ所)のダムと北海の入り口にある堰には、上下流を移動する魚類に自由な移動を保障するための魚道が作られることになった。



オランダを流れるライン川

出典：国土技術総合研究所資料「自然共生型流域圏・都市再生に向けて一人・水・大地と環境」 吉川勝秀
「リバーフロント 2003VOL.48」 p 9
オランダにおける河川の再生：ヨーロッパ水問題枠組み指針将来展望